

令和6年度の民間所在資料保存状況調査について—海南市—

藤 隆宏

令和6年度に和歌山県立文書館（以下「文書館」という。）が海南市域で実施した民間所在資料保存状況調査（以下「民間所在資料調査」という。）について報告する。

平成26年度から令和5年度までの民間所在資料調査は、「災害の記憶」事業⁽¹⁾への参加・協力を活動の中心とし、災害記録の採集及び成果の地域還元を優先的に行っていた⁽²⁾が、令和6年度からは、特定内容記録の重点的採集や個別文書群の詳細調査等を行わず、できるだけ多くの所在情報を収集するという、平成9年度から同17年度までに実施した民間所在資料調査⁽³⁾（以下「前回調査」という。）の調査スタイルに戻った。各文書群について、まずは現存を確認し、内容把握は原則として概要程度に抑え、所蔵者とのコミュニケーションを通じて今後の継続的な保管をお願いするが、場合によっては地元教育委員会、文書館等が受け入れを検討する、というスタイルである。ただし、前回調査とは異なり、郷土史家等に民間所在資料調査員を委嘱等することはせず、文書館の職員（文書専門員）が調査を行っている。

1 調査方法

令和6年度は、海南市教育委員会の協力をいただき、同市域を対象地域として前回調査の追跡・現状確認を中心に行うこととした。

現海南市は、平成17年に旧海南市と旧海草郡下津町が合併して成立したが、両旧市町域とも前回調査は平成9年度から同11年度まで実施され、計74件72文書語群について調査されている。⁽⁴⁾ただし、うち3文書群については散逸という結果であったので、都合、前回調査では69文書群の存在確認がされたことになる。

特に旧下津町域の文書群については、旧下津町立歴史民俗資料館に多く収蔵されていることが前回調査で確認されていた。同館は、平成17年の市町合併後、海南市立下津歴史民俗資料館となり、同24年3月をもって閉館したが、収蔵されていた文書群の多くは現在も海南市教育委員会の管理下にある

表1 令和6年度民間所在資料調査一覧

	調査実施日	調査等対象地域等	備考
1	令和6年4月24日	海南市市民交流センター	市教育委員会との打合せも行う
2	5月28日	田辺市役所本宮行政局教育事務所	令和4・5年度調査の関連調査
3	9月13日	海南市歴史民俗資料館（当時）	
4	10月8日	小野田	
5	10月11日	且来	
6	10月16日	黒江	
7	10月17日	和歌山市毛見	
8	10月24日	黒江・小野田	
9	令和7年1月16日	下津町梅田・下津町橘本	
10	1月18日	別所	
11	3月7日	下津町塩津	
12	3月13日	且来	
13	5月13日	下津町塩津	令和6年度調査の関連調査
14	5月21日	下津町塩津・下津町丸田	令和6年度調査の関連調査

*実際に訪問して文書群を実見する調査に限る

旨の教示を得たので、まずは同委員会が保有する文書群を確認した上で、その他の民間所在資料について追跡を行うこととした。

同委員会に管理されていない文書群については、住宅地図等で前回調査時の所蔵者又は同族と思われる者の屋敷現存が確認できる場合は、当該所蔵者及び御家族宛の手紙を出し、後日電話にて調査依頼又は聞き取り調査を行った。その上で、訪問調査の許可を得た文書群については、上述のとおり概要確認調査を行った（表1）。

2 前回調査の追跡結果

表2は、調査した民間所在資料調査の件数、すなわち存否・所在確認ができた文書群の数である。計76文書群について調査したが、うち63件が、前回調査で確認されていた文書群の再確認となったものである。令和6年度の調査における新出文書群の発見はなかった。⁽⁵⁾

表3は、前回調査の再確認となった63文書群について前回調査と対比したもので、前回調査以降に所蔵者の代替わり⁽⁶⁾、保管場所の移動又は散逸が確認されたものの件数である。

旧所在地が全く別の家になっていたり、駐車場になっていたりして所蔵者と連絡で

きない文書群が4件ある。これを「散逸」とした。ただし、これらは旧保管場所が存在しないことが確認された件数であり、現時点で所蔵者と連絡が取れない文書群及び所蔵者と連絡は取れたが存否確認ができていない文書群は他に6件あり、そのいくつかは散逸している可能性がある。

前回調査以降、11件の代替わり、39件の保管場所移動が確認された。代替わり11件のうち3件は、先代から現所蔵者へ古文書についての引継ぎはされておらず、前回調査時の保管場所を確認していただくなどしてようやく「再発見」されたものである。

保管場所の移動は、県又は海南市教育委員会への寄贈・寄託か、上述した下津歴史民俗資料館の閉館に伴う所蔵者への返還のようである。ただし、前回調査時に旧下津町立歴史民俗資料館に収蔵されていた文書群のうち、所蔵者宅へ返還されたものは2文書群にとどまる。他の文書群は、旧下津町時代に既に寄贈されていたものもあろうが、区有文書をはじめとして、出所への返還ではなく、引き続き地元地方自治体による保管が希望されたものであるといえる。表4にあるように、これらは現在海南市市民交流センターに保管されている。このことは、旧下津町域の古文書の散逸を防いだとも言えるが、区有文書であっても、出所での保管維持が不可能になっている現状であるとも言えるのではないか。海南市域は、県庁所在市・中核市である和歌山市への通勤圏内だが、それでも人口減・過疎化による地域コミュニティの弱体化等により、区・大字による保管が困難になっている現状と言わざるを得ないのではないだろうか。

また、今回の民間所在資料調査がきっかけとなり、令和7年6月、鈴木家文書（海南市下津町丸田）が文書館へ寄贈された。⁽⁷⁾ 受入れについて文書館と海南市教育委員会が相談した結果、海南市指定文化財「鈴木家方便法身像」⁽⁸⁾ は同委員会が受け入れ、それ以外の古文書は文書館が受け入れることとなったものである。後述のとおり、文化財専門職員も配置され、新たな歴史資料展示施設の整備に注

表2 令和6年度民間所在資料調査文書群数

旧町村域名	全体	前回調査	新出	前回調査年度
旧海南市	22	21	0	平成9～11年度
旧下津町	54	42	0	
合計	76	63	0	

表3 前回の文書館民間所在資料調査の追跡

旧町村域名	全体	代替わり	場所移動	散逸	前回文書館調査年度
旧海南市	21	5	5	4	平成9～11年度
旧下津町	42	6	34	0	
合計	63	11	39	4	

力している海南省でさえ、今以上の新規資料受入れは困難な状況であるようだ。

なお、海南省且来の2文書群の所在地は、令和5年6月の大雨による亀の川氾濫により浸水被害を受けていた。2文書群ともに浸水位より高所に保管されていたために水損は免れていたが、所蔵者は相当の損害を被っている。令和5年6月の梅雨前線による大雨及び台風第2号による災害では、海南省に災害救助法が適用される等、大きな被害が出た。このとき、和歌山県教育庁文化遺産課から県内市町村宛に域内文化財の被災について照会するなど、文化財被害の確認が行われているが、当該2文書群を取り巻く状況については、文書館は災害当時に把握することができておらず、本調査時に初めて知ることとなった。殆どが未指定文化財である民間所在資料の被害確認については、基礎自治体の職員以外の者によるサポート、代替や、確認方法変更等、検討すべき課題を改めて顕在化させたと言える。

表4は、文書館が把握している、海南省域を出所とし、現在は歴史資料保存利用機関に保管されている文書群の一覧である。文書群の一部でも公的機関で展示・保管されているものは掲載している。盗難防止及び個人情報保護のため、本稿においても公的機関で保管されているものを除き、各文書群の紹介はしない。

海南省教育委員会は、旧市町時代から、民間所在資料を多く受け入れ、それらの散逸を防止してきたといえる。かつ、管理する文書群のほとんどを目録化している。かつての歴史民俗資料館の非常勤職員や、ボランティアの方が主に整理したものである。

旧下津町域のものを中心に43文書群を保管している海南省市民交流センターは、専門的な資料保存機関ではないが、文書群は職員の執務する部屋に収納されており、保存環境としては良好といえる。

令和7年度末をもって、海南省歴史民俗資料館は閉館した。同館は、引き続き文化財保存施設としては存続し、所蔵文化財の展示は、海南省民防災公園内で令和8年度春開館予定の体験学習館で行われる構想である。⁽⁹⁾

上述のとおり、海南省教育委員会による文化財の新規受入れは困難な現状のようだが、今後、同館で文書館等に所蔵されている資料の展示等も含めて文化財が活用されることによって、地域の関心・理解が深まることを期待する。

表4 公的な歴史資料保存利用機関等に保管されている文書群

地区名	文書群名	目録	その他出典	最終確認日	現在の保管場所	一部資料を保管している公的機関
重根	間藤家文書	1		R6.12.24	県立博物館（寄託）	
別所	願成寺文書	1		－		県立博物館
黒江	尾崎林太郎家文書	1	文書館『丹生家文書目録・尾崎家文書目録』	－	当館寄託→返還	文書館（マイクロ）
鳥居	田中家文書	1		－	文書館（寄託）	
重根	亀井家文書			R6.9.13	海南市歴史民俗資料館	
日方	藤田家文書			R6.9.13	海南市立歴史民俗資料館	
船尾	林繁昭氏旧蔵文書			R6.9.13	海南市歴史民俗資料館	
孟子	孟子区有文書			－	文書館（寄託）	
海南	山本家文書			R6.4.24	海南市市民交流センター	
下津町青枝	青枝区有文書	2		R6.4.24	海南市市民交流センター	
下津町中	中区有文書	2		R6.4.24	海南市市民交流センター	
下津町上	川村家文書			R6.4.24	海南市市民交流センター	
下津町上	浜中区上村文書			R6.4.24	海南市市民交流センター	
下津町橋本	梶川文一氏文書			R6.4.24	海南市市民交流センター	
下津町曾根田	中野家文書	2		R6.4.24	海南市市民交流センター	
下津町小松原	中尾家文書	2		－		海南市市民交流センター
下津町百垣内	百垣内区有文書	2		R6.4.24	海南市市民交流センター	
下津町橋本	浄満寺文書	2		R6.4.24	海南市市民交流センター	
下津町大窪	旧加茂村大窪村文書			R6.4.24	海南市市民交流センター	
下津町小松原	小松原区有文書	2		R6.4.24	海南市市民交流センター	
下津町橋本	笠畑家文書	2		R6.4.24	海南市市民交流センター	
下津町興	興区有文書	2		R6.4.24	海南市市民交流センター	
下津町方	方区有文書	2		R6.4.24	海南市市民交流センター	
下津町下	下区有文書	10		R6.4.24	海南市市民交流センター	
下津町丸田	丸田区有文書	10		R6.4.24	海南市市民交流センター	
下津町塩津	塩津区文書			R6.4.24	海南市市民交流センター	
下津町丸田	鈴木家文書	2		－	文書館（寄贈）	
下津町小畑	池田家文書			R6.4.24	海南市市民交流センター	
旧仁義村	仁義区旧仁義村文書			R6.4.24	海南市市民交流センター	
下津町鯉川	鯉川区文書			R6.4.24	海南市市民交流センター	
旧加茂村	加茂区加茂村文書			R6.4.24	海南市市民交流センター	
下津町橋本	橋本区有文書	2		R6.4.24	海南市市民交流センター	
下津町大崎	大崎区有文書	2		R6.4.24	海南市市民交流センター	
下津町梅田	梅田区有文書			R6.4.24	海南市市民交流センター	
下津町上	青木家文書			R6.4.24	海南市市民交流センター	
下津町橋本	奥家文書			R6.4.24	海南市市民交流センター	
下津町引尾	船橋家文書			R6.4.24	海南市市民交流センター	
下津町大崎	田広家文書			R6.4.24	海南市市民交流センター	
下津町引尾	湯川家文書			R6.4.24	海南市市民交流センター	
下津町興	佐古家文書			R6.4.24	海南市市民交流センター	
下津町上	川上家文書			R6.4.24	海南市市民交流センター	
下津町上	長保寺文書	2		－	当館寄託→返還 県博寄託→返還	文書館（マイクロ）

地区名	文書群名	目録	その他出典	最終確認日	現在の保管場所	一部資料を保管している公的機関
下津町小畑	内芝家文書	2		R6.4.24	海南市市民交流センター	
下津町小南	小南区有文書	10		R6.4.24	海南市市民交流センター	
	下津町役場関係書類			R6.4.24	海南市市民交流センター	
	樫谷家文書			R6.4.24	海南市市民交流センター	
下津町下津	中村家文書			R6.4.24	海南市市民交流センター	
下津町橋本	山本家文書			R6.4.24	海南市市民交流センター	
下津町丁	田中家文書			R6.4.24	海南市市民交流センター	
下津町梅田	山下芳松氏寄贈文書			R6.4.24	海南市市民交流センター	
下津町大崎	堀田房五郎氏寄贈文書			R6.4.24	海南市市民交流センター	
下津町下	小上恵弥氏寄贈文書			R6.4.24	海南市市民交流センター	
下津町杓掛	三木清一郎氏寄贈文書			R6.4.24	海南市市民交流センター	
下津町市坪	稲田家文書			R6.4.24	海南市市民交流センター	
下津町梅田	中尾家文書		文書館『諸家史料目録1』	—	文書館	
日方	三業組合文書等		文書館『移管資料目録』 (県史編さん班移管資料)	—	文書館	
野上中	棕櫚毛製束子製造 禁止陳情書等		文書館『移管資料目録』 (県史編さん班移管資料)	—	文書館	
下津町塩津	定約書 (捕漁売買代価取替)		文書館『移管資料目録』 (県史編さん班移管資料)	—	文書館	
海南市	那賀郡別院村・ 野原村・木津村図		文書館『移管資料目録』 (県立図書館移管資料)	—	文書館	
ひや水	那賀郡冷水村文書			—	文書館	
黒江	岩橋家文書			—		文書館 (マイクロ)
下津町大崎	藤岡家文書			—	文書館	
黒江	名手由兵衛家文書			—	文書館	
黒江	尾崎重光家文書		文書館『丹生家文書目録』 ・尾崎家文書目録』	—		文書館 (複製物)
黒江	尾崎彌太郎家文書		文書館『丹生家文書目録』 ・尾崎家文書目録』	—		文書館 (複製物)
海南市	山本幸次氏旧蔵野 上軽便鉄道資料			—	文書館	
日方	鍵村商店資料			—	文書館	
海南市	田嶋漆店関係文書			—	文書館	
孟子	榎家文書			—	文書館	
海南市	第3次小野田少尉 救出活動参加報告 書等			—	文書館	
孟子	孟子村庄屋榎家文書			—	文書館	

* 「目録」欄の数字は、当該文書群が和歌山県教育委員会発行の次の目録集に掲載されていることを指す。

- 1 … 『和歌山県古文書目録1』 (昭和58年)
- 2 … 『和歌山県古文書目録Ⅱ』 (昭和47年)
- 10… 『和歌山県古文書目録10』 (昭和57年)

* 「最終確認日」欄に「—」とある文書群については、公的機関に保管されているものを除き、当該文書群の調査を行ったか否かを含めて本稿では明らかにしないことを示す。

注

- (1) 「災害の記憶」事業は、平成26年度から令和3年度まで、和歌山県立博物館施設活性化事業実行委員会が文化庁補助金を得て実施した事業で、同館を中心に同県教育庁文化遺産課、文書館、和歌山大学、地域資料ネット「歴史資料保全ネット・わかやま」及び県内外の専門職・研究者が参加した。例年、事業対象地域内における過去の災害に関する記録、記念碑、口碑、痕跡、遺跡等を中心に、未指定のものを含む文化財の所在確認調査を行い、その成果を小冊子『先人たちが残してくれた「災害の記憶」を未来に伝える』の発行及び現地学習会「歴史から学ぶ防災一命と文化遺産とを守る」の開催により地域に還元するものであった。同事業の概要については「和歌山県立博物館における文化庁補助事業、事業報告（平成22年～29年度）」、成果については「小冊子『先人たちが残してくれた「災害の記憶」を未来に伝える』Ⅰ～Ⅶ」、「現地学習会「歴史から学ぶ防災2020」の内容を伝える動画を公開しています」、「現地学習会「歴史から学ぶ防災2021一命と文化遺産とを守る」」〈<https://hakubutu.wakayama.jp/archive-menu/>〉（令和7年6月30日アクセス）参照。
- (2) 平成26年度から令和5年度までの民間所在資料調査については、拙稿「平成26年度の民間所在資料保存状況調査について―御坊市・美浜町・日高川町・那智勝浦町―」（『和歌山県立文書館紀要』第18号、平成28年）、「平成27・28年度の民間所在資料保存状況調査について―由良町・印南町・すさみ町・太地町・串本町―」（『同』第20号、平成30年）、「平成29・30年度の民間所在資料保存状況調査について―日高町・白浜町・新宮市・北山村―」（『同』第22号、令和2年）、「令和元・2年度の民間所在資料保存状況調査について―湯浅町・広川町―」（『同』第24号、令和4年）及び「令和3～5年度の民間所在資料保存状況調査について―田辺市・上富田町―」（『和歌山県立文書館年報・研究報告』第1号、令和6年）を参照。
- (3) 前回調査とは、平成9年度から同17年度にかけて「平成の大合併」以前の県内旧50市町村域ごとに文書館から依頼又は委嘱して設置した「民間所在資料調査員」（平成9年度～同11年度は「地域史料保存調査員」）が、各市町村教育委員会等の協力を得て行った民間所在資料調査で、万一の災害時に救出・保全活動を行うための所在場所など基礎情報の収集が目的であった（龍野直樹「地域資料保存事業への思考と試行」（『和歌山県立文書館紀要』第6号、平成13年）、拙稿「民間所在資料保存状況調査結果報告」（『同』第12号、平成19年））。
- (4) 旧海南市域では南方久晴地域史料保存調査員が28件27文書群、旧下津町域では中谷澄雄地域史料保存調査員が46件45文書群の調査を行っている（前注拙稿、拙稿「民間所在資料保存状況調査の中間報告」（『同』第8号、平成15年））。
- (5) 前回調査の再確認となった63文書群を除く13文書群は、文書館としては従来未把握であったが、いずれも海南市教育委員会に管理されていたものである。
- (6) 保管場所の移動を伴わない代替りに限る。
- (7) 鈴木家文書は、長持1棹（中性紙段ボール18箱）分の古文書及び若干の掛け軸等美術品を含む。鈴木家関わった漁網・蜜柑等を扱う商業、丸田村・大崎村の村政に関するものが多い。『和歌山県古文書目録Ⅱ有田川流域古文書調査報告書』（和歌山県教育委員会、昭和47年）に江戸期から明治期にかけての409件分の目録が採録されているが、より多くの数量があることは間違いない。
- (8) 『下津町史 資料編・上』昭和49年、p.130,250
- (9) 体験学習館は、平常時においては災害史にウェットを置いた郷土史展示や学習・体験プログラム等を実施し、災害時には文化財や歴史資料の一時保管、応急処置等の文化財レスキューに使用することが構想されている（「海南市民防災公園グランドデザイン～土木と防災を学ぶ公園～」令和6年11月〈<https://www.city.kainan.lg.jp/material/files/group/23/granddesign.pdf>〉令和7年9月1日アクセス）。

【謝辞】

令和6年度の民間所在資料調査では、海南市教育委員会生涯学習課の全面的な御協力をいただきました。末筆ながらここに記して深謝申し上げます。